

令和 01 年度 第 1 回運営協議会

- 1.開催日 令和 01 年 07 月 25 日（木）09：00
- 2.開催場所 介護老人福祉施設 清静園 応接室
- 3.出席者 委員 安東 元夫 委員 一万田範彦
委員 一水 勝徳 委員 玉井 照代
委員 吉田 亮
- 4.その他出席者 理事長 大島 敏武 業務執行理事 大島 富美子
事務長代理 渡邊 隆
オブザーバー 後藤 十四郎

次 第

- 5.会長挨拶
6. 会長・副会長の改選
7. 運営協議会のこれまでの取組み
- 8.報告書の時点修正と新たな地域ニーズの把握について
 - ①把握方法
 - ②取り纏め期限
 - ③その他
- 9.大規模災害時の対応について
 - ①自治委員、民生委員、防災士の避難施設見学について
 - ②法人が行う訓練について
 - ③その他
- 10.その他

| | | |
|----|-------|---|
| 委員 | 一万田範彦 | <p>09:00 開会 運営協議会議開催にあたり、次の通り説明・報告した。尚、議事録の作成は玉井委員及び吉田委員にお願いした。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運営協議会規則第 3 条第 2 項の規定により、委員の改選時期にあたり委員 5 名全員の再任を確認し、定款細則第 6 条第 2 項の規定により会議が有効であることを説明した。 2. その他出席者である理事長、業務執行理事、事務長代理、オブザーバーに防災担当後藤事務職員を確認、謝辞を述べた。 3. 本日の議題は次のとおりであること。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 会長・副会長の改選 (2) 運営協議会のこれまでの取組 (3) 報告書の時点修正と新たな地域ニーズの把握について <ol style="list-style-type: none"> ①把握方法 ②取り纏め期限 ③その他 (4) 大規模災害時の対応について <ol style="list-style-type: none"> ①自治委員、民生委員、防災士の避難施設見学について ②法人が行う訓練について ③その他 (5) その他 <p>以上 1.~3.について説明後、定款細則第 5 条第 2 項の規定により会長が議事進行することを宣言し、議事に入った。</p> |
| 議長 | 一万田範彦 | <p>議題 (1) 会長・副会長の改選について委員に選出の意見を求めた。</p> |
| 委員 | 安東元夫 | <p>再任を提案した。</p> |
| 議長 | 一万田範彦 | <p>再任の意見を受諾、もう 1 期引き受ける意向を表明した。尚、副会長については、規則第 5 条第 1 項の規定により、引き続き玉井委員を指名した。</p> |
| 委員 | 全 員 | <p>選出について、異議なく、承認の意を表した。</p> |
| 議長 | 一万田範彦 | <p>議題 (2) 運営協議会のこれまでの取組について以下の説明を行う。</p> <p>本会議は、一志会が社会福祉充実財産等を活用して計画する地域公益事業の内容及び地域における需要等について、公平かつ中立な意見の聴取等を行うことを目的として平成</p> |

| | | |
|----|-------|---|
| | | <p>29年4月1日に施行された。</p> <p>第1回運営協議会を平成29年9月7日に開催し、理事長より「竹中校区における要避難対象者の現状や危険地域高齢者の現状の把握等について調査が求められた。</p> <p>自治委員・民生委員・防災士等の協力を得て平成30年5月18日に理事長へ調査報告書を提出した。この間一志会においても避難所における所要の予算措置を行うとともに、「災害時・要援護者受入実施要領」を策定、竹中校区自治委員連絡協議会と「災害時・要援護者受入実施要領」を締結、竹中校区全世帯へ「清静園避難所大規模災害時の申込の流れ」を配布するなど鋭意取り組んだ。</p> <p>報告書について、調査以来1年半余りが経過し、その間亡くなられた方や施設等へ入所された方等、異動が生じており、実態とそぐわない状況となっている。</p> |
| 議長 | 一万田範彦 | 調査報告書にかかる再調査の必要性について審議を諮り、議題(3)へと進めた。 |
| 委員 | 全員 | 再調査について、異議なく、承認の意を表した。 |
| 議長 | 一万田範彦 | <p>議題(3) 報告書の時点修正と新たな地域ニーズの把握について</p> <p>①把握方法</p> <p>②取り纏め期限</p> <p>③その他</p> |
| 議長 | 一万田範彦 | <p>①～③について、1)「調査お願い」</p> <p>2)「竹中校区災害時要援護者記入要綱」</p> <p>3)「清静園避難所を希望する者一覧表」</p> <p>4)「竹中校区災害時要援護者調査票(新規)」</p> <p>の会長試案資料を説明し、論議を求め、結果を以下にまとめた。</p> <p>①把握方法について、1)～4)の4枚セットを準備する。令和01年08月21日、竹中校区自治委員会にて各自治会長に配布し、お願いする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹中校区自治会連合会会長が各地区の自治会長に文書により依頼する。 ・民生委員、防災士との連携、協力依頼を文書中に明記する。 ・「竹中校区災害時要援護者記入要領」は、自治会別に添付する。 ・「記入要領」に即して「要援護者調査票(新規)」を作成する。 ・試案資料を決定し、必要部数を法人が8月21日までに準備する。 <p>②取り纏め期限について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹中校区自治会連合会での取り纏めを令和01年09月27日(金曜日)までに行う。 ・運営協議会で取り纏め受理後、会長が一覧表に加工し、第2回目の運営協議会を開催する。議論したうえで理事長に報告書提出する旨を説明した。 |
| 議長 | 一万田範彦 | 調査についての意見を求めた。 |

| | | |
|-----|-------|---|
| 理事長 | 大島 敏武 | 調査関係者を労うとともに「そうしてもらえるとありがたい」と謝辞を述べた。 |
| 理事長 | 大島 敏武 | 委員である管理者（2名）は、自治会より協力を得て一覧表まで作成提出いただいた情報については、法人としては情報処理を厳格に行い、災害発生時いつでも対応できるようデータ化し、提出できるよう体制整備することは必務である。保管するだけでなく、活用することが大事であると教示した。 |
| 議 長 | 一万田範彦 | 名簿などの情報が避難だけに関わらず、法人が地域に入り込む機会の一つ的手段として有効活用することを推奨した。 |
| 議 長 | 一万田範彦 | 調査についての質問・意見を求めた。 |
| 委 員 | 全 員 | 承認の意を表した。 |
| 議 長 | 一万田範彦 | ③その他、 ○避難場所の指示物について 前年度会議における一水委員の「避難者でルール作りが必要」との意見を以って、避難所生活での最低ルールを避難者へ掲示又は配布することを考え、会長試案「清静園避難所の生活ルール」を作成したことを説明した。意見を求め、修正点を以下にまとめた。 ・避難生活における食事は、避難者や付き添う人が調理するため、「〇時～〇時くらいまでの時間内に食事ができるように各自準備（調理）して下さい」と表現し、時間幅を設けてはどうか。 ・消灯時間について、気象情報を求める場合の規制は、配慮してはどうか。 ・「会話は、小さな声で…」を「特に夜間等、人の迷惑にならないように…」と表現を追加してはどうか。 |
| 議 長 | 一万田範彦 | 「清静園避難所の生活ルール」は内容を精査しながら再編集・調整し、理事長に確認を得て掲示や配布を検討することとしてよいか審議を求めた。 |
| 委 員 | 全 員 | 承認の意を表した。 |
| 委 員 | 安東 元夫 | その他下記意見を述べた。 生活ルールについての掲示・配布も大事であるが、竹中地区の人は、災害に遭ったことがない人が殆どであり、避難所に行くときに何を持っていけばいいのかわからない。身一つで駆け込まれても困ると思うので、最低限の必要な物を明記する方法を検討する旨を述べた。 |
| 理事長 | 大島 敏武 | 「災害時・要援護者受入実施要領」の中に記載していると意見した。 |

| | | |
|--------|-------|---|
| 議長 | 一万田範彦 | 全戸配布した「災害時申込の流れ」(フロー図)にも明記していると意見した。 |
| 委員 | 安東 元夫 | 常時準備しておかないといけないのだろうが、なかなか出来ていないのが実情であると述べた。配布物を保管しているだろうかと疑問を意見した。 |
| 議長 | 一万田範彦 | 避難申込の際の電話対応時に「準備する物」を説明する等の対策を述べた。 |
| 理事長 | 大島 敏武 | 法人としての対策を述べ管理者委員に教示した。 避難申込連絡が法人に入った場合に住所・電話番号等の情報聴取しながら「準備する物」の説明へと誘導する等、聞き取る体制を整備する。調査票に基づいた質問項目等を整備する旨を述べた。 |
| 議長 | 一万田範彦 | その他意見について質問・意見はないかを求めた。 |
| 委員 | 全 員 | 承認の意を表した。 |
| 議長 | 一万田範彦 | 議題(4)大規模災害時の対応について ①自治委員、民生委員、防災士の避難施設見学について ②法人が行う訓練について ③その他 以下にまとめた。 ①については、委員からの意見であることを確認し、異議ないかを求めた。 又、施設は受入可能であることを確認した。 |
| 委員 | 全 員 | 承認の意を表した。 |
| 理事長 | 大島 敏武 | 委員の要望として受入れる意向を示した。 |
| 議長 | 一万田範彦 | ①については、見学に関する日程等、随時協議を進め実施することを決定した。具体的方法等については、防災担当の後藤さんを含めて検討・相談することを決定した。 |
| 議長 | 一万田範彦 | ②法人が行う訓練について、防災担当の後藤事務職員へ説明及び災害関係についての意見交換を求めた。 |
| オブザーバー | 後藤十四郎 | 法人が行う防災訓練について、以下を説明した。 平成31年度事業計画の「平成31年度法人防災訓練計画書」に基づき、4月から毎月実施している。今年度新しく「地域炊き出し支援計画」・「事業継続計画訓練」があり、高難度の訓練であり、法人職員での習熟後に地域関係者と計画実施する旨を述べた。 |

| | | |
|--------|-------|--|
| 理事長 | 大島 敏武 | <p>「法人防災訓練計画書」に係る防災担当へ以下を教示した。</p> <p>「事業継続計画訓練」は、「対策本部」を設置し、各々の役割での訓練を実施する。</p> <p>また、「事業継続計画訓練」は災害発生後、事業継続の可否を判断することを想定した訓練である。まず災害発生時の訓練を行い、しっかり慣れた上で「事業継続計画訓練」をする必要があると説明した。</p> <p>次に「炊き出し訓練」は、十分な検討・計画性を要す。今年度については、職員で訓練する。職員訓練後、自治委員の皆さんや地域関係者に入っただき、訓練の輪を広げていくこと。</p> |
| オブザーバー | 後藤十四郎 | 職員で毎月、防災訓練は実施しているが、大規模災害についての訓練は、まだ実施できていない状況であると説明した。 |
| 議長 | 一万田範彦 | まずは、施設内職員で訓練を実施する。それを受けて地域と連携した訓練を行う計画であることを確認した。 |
| 理事長 | 大島 敏武 | <p>「平成 31 年度 防災資材備蓄整備計画」・「防災資材備蓄整備計画・進捗状況」の資料に基づき以下を説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成 31 年度事業計画では、受入数を増やし 50 名体制にしている。既に寝具 50 名分については、整備完了している。いつでも受け入れは、可能である。 ○食材準備についての体制は、人数分×日数分の保存食を準備している。食材単価が高額であるため、順次賞味期限を管理し、入れ替えし体制している。 ○大規模災害対応の物品については、今年度より令和 3 年度までの整備計画を作成し、それに伴う予算執行についても既に事業計画・予算で承認をいただいている。 ○「設備等保守点検計画」に基づき、機器が正常に作動するかどうかの訓練等、毎月定期的に行っている。整備物品の中で発電機等、各地域の災害発生時に必要に応じ、貸し出せるような体制も今後検討していく予定である。整備後に行う予定を立てる。 |
| 理事長 | 大島 敏武 | <p>運営協議会の本来の目的である「地域ニーズの把握」について今後の構想を以下のように述べた。</p> <p>豊後寮建替えにあたり、今年の 9 月から仮設住宅の建設に入る。年内に仮設住宅が完成し、早ければ年内に豊後寮入所者が全て仮設住宅に移動する。来年、年明けすぐから解体工事にかかる予定である。今後、施設整備するなかで、会長から竹中地域の中で、皆で集まって座談会ができる様な場が欲しいとの意見があったとお聞きしている。施設整備では、デイサービスを内設している。デイ利用日ではない日に利用していただき、皆が集まれる体制を検討することを構想している。月 1 回程度、利用地区を月別に計画することで受け入れも可能になってくること予想し、地域公益事業の一環としての今後の展望を述べた。</p> |


| | | |
|--------|-------|---|
| 議長 | 一万田範彦 | 「新施設の内覧会なども良い」と提案した。 |
| 委員 | 安東 元夫 | 地域の交流の場として場所を提供いただけるとありがたいと感謝を述べた。 |
| 議長 | 一万田範彦 | 新施設利用方法については、今後の課題として提案・協議していくと述べ、その他意見を求めた。 |
| オブザーバー | 後藤十四郎 | 運営協議会「地域課題の共有」として以下の意見を述べた。 施設住所地の大野川や河原内川の支障ゴミが多く台風などの大雨では滞留するため、水嵩が増し浸水地域として危険な状況がある。地域住民や地域関係者組織である推進協議会などで強い要望として行政へ挙げるなどは如何でしょうか |
| 委員 | 安東 元夫 | 河川・河床問題については、既に竹中校区自治員連絡協議会でも地域課題であがっており、大南振興協議会を通じ要望している。行政施行を待っているところであると状況説明した。 |
| 議長 | 一万田範彦 | ③その他について、施設における昨年度の避難者実績報告を求めた。 |
| 委員 | 吉田 亮 | 地域公益事業（地域要援護者受け入れ）に関する報告に基づき、平成 30 年 9 月 30 日に 5 名（男性 1 名・女性 4 名）、平成 30 年 10 月 5 日に 2 名（脳性小児麻痺男性 1 名・介護者女性 1 名）の受け入れ及び避難終了までの経緯を実績として説明した。 |
| 委員 | 安東 元夫 | 現在竹中地区の行政が通知する避難所として、上戸次小学校と楠の木ホールが取り消され、竹中小学校・中学校のみになっている。実際のところ、夜間時の避難等については各自となっているが、地域の手伝い役としては、避難所まで連れて行かないといけないのではと責任を感じている。早めに避難してもらえないのだろうかと不安を呈した。 |
| 委員 | 一水 勝徳 | 当該地区では、台風等の気象情報を確認しながら、対象者への事前避難の連絡をすると「息子のところへ避難する」等の連絡が入るようになった。繰り返し警告することで自主避難できるようになっていると述べた。 |
| 理事長 | 大島 敏武 | 避難申し込みにおいて事前の気象情報に危険性がある場合は、「前日避難でも可」と周知してもらってもよい旨を意見した。 |
| 議長 | 一万田範彦 | 要援護者は、70 歳台など高齢者にこだわらず障害者もある。対象者として一覧表にあがっていないため、把握できる調査をすることをお願いした。 |

| | | |
|----|-------|--|
| 議長 | 一万田範彦 | 議題の全てについて協議を完了したことを説明し、その他意見を求めた。 |
| 委員 | 全員 | 異議なく、承認の意を表明した。 |
| 議長 | 一万田範彦 | 委員全員の承認を確認し、本議題の議決に即して進捗することを報告するとともに、長時間の協議に対する労を謝し、運営協議会を閉会した。 |


令和01年 7月 25日

議事録署名

社会福祉法人 一志会 理事

会長 一万田範彦 


居宅介護支援事業所 管理者

副会長 玉井 照代 

竹中校区自治委員連絡協議会 会長

委員 安東元夫 

竹中校区民生委員協議会 会長

委員 一水勝徳 

通所介護事業所 管理者

委員 吉田 亮 